

野生植物の多様性を守る

皆さん「ジーンファーム」をご存知でしょうか。ジーンファームは、ひとはくの建物から北東へ100mほど離れたところにあります(写真1)。「ジーン」は遺伝子、「ファーム」は農場という意味の英語。つまりジーンファームとは、遺伝子という資源を守り、保存するという役割をもった施設です。ジーンファームでは、特に、絶滅が心配されている野生植物を数多く保存しています。農作物や薬用植物などの有用植物の栽培・保存は広く行われていますが、野生植物を対象とした施設は国内でもほとんどみられません。ジーンファームは、野生植物の多様性を守るという大切な役割を担っています。

様々な野生植物を育成していくために、ジーンファームにはビニールハウス、圃場、人工池など、いくつかの施設があります。しかし、このような人工的につくられた環境下で、野外の環境下に生育していた野生植物を



写真1. ジーンファーム。



写真2. カザグルマ(5月末に三田市内で撮影)。



写真3. ジーンファーム見学会のひとコマ。

育成し、管理していくことはなかなか大変です。植え替えたとたんに関元がなくなってしまう植物、逆に、増えすぎて他の植物の生育を妨げてしまう植物など、反応は実に様々です。なるべく多くの野生植物を、安全に、しかも効率的に育成していくために、どの植物がどのようなふるまいを見せるのか日々の観察が大切です。また、水やりや草ぬきなどの日常的な世話も当然ながら欠かせません。ジーンファームは、そこで働く多くの方々の努力によって支えられています。

ジーンファームで保存している植物のひとつ「カザグルマ」をご紹介します(写真2)。カザグルマは「風車」で、その名は車輪状にひらいた「がく片」に由来しています。カザグルマも近年急速に減っている植物のひとつで、兵庫県版のレッドデータブック(絶滅のおそれのある野生生物の情報をとりまとめた本)にも挙げられています。私たちは最近、ひとはくのある三田市でカザグルマ自生地の調査を行いました。いくつかの自生地ではどれだけ探してもカザグルマを見つけることができませんでした。今まで見られた植物が突然見られなくなってしまうことは悲しいことです。どうしてカザグルマが見られなくなってしまったのか...その原因を探るのも私たちの仕事のひとつです。

ジーンファームでは貴重な野生植物を保存しているため、普段は非公開となっていますが、3月から11月の間の、毎月第3日曜日「はくぶつかんの日」には、お昼に見学会を開催しています(写真3)。見学時間は1時間ほどで、博物館の研究者がファーム内をご案内します。ジーンファームを覗いてみたいという方、また貴重な野生植物を見たいという方はぜひご参加ください。

黒田有寿茂(自然・環境再生研究部)